

序

研修医の皆さん、研修生活はいかがですか？学生時代に思い描いたような研修を送れていますでしょうか？

医学生から研修医となるステップは、医療の世界では「医師国家資格に合格」、「研修医生活スタート」という当然の流れのように思われるところもありますが、学生という守られる立場から自分自身の脚で立つ社会人という立場へ大きなステップを踏むことになります。

純粋に臨床だけ学ぶことができればよいのですが、電子カルテの使い方や指示出し、オーダーなどの院内ルール、そして社会人としてのマナーなど要求されることが多く、見学のときに憧れた研修生活とは違うと疲れ果ててしまってはいないでしょうか。そのような状況のなかでは、学生時代に感じた医学・臨床への純粋な興味を忘れてしまい楽しくなくなってしまい、患者さんのベッドサイドに足を運ぶことも億劫になってしまいますことがあります。

そんなときに、臨床の楽しさを思い出させてくれるような一冊になればと本書を企画させていただきました。2014年発行の「入院患者管理パーカフェクト」、2017年発行の「入院患者管理パーカフェクトPart2」の項目立てをベースに、働き方から、病棟診療で困る問題、そして退院支援やお看取りの場面まで紙面が許す限りたくさん盛り込ませていただきました。依頼させていただいた筆者の方々は非常にやりがいをもち活き活きと患者さんと向き合い続けている素晴らしい方々です。原稿を依頼する段階で患者さんと向き合うこと、研修生活が楽しくなるメッセージを添えていただくようにもお願いしています。

なお、サブタイトル「病棟診療の勘所」については、法曹の世界でいつも楽しそうに仕事をしていた父の著書「弁護士業務の勘所～弁護士という仕事をもっと楽しむため～」から引用させていただきました。

本書が病棟で困ったときに助けになること、また忙しさのなか道に迷い初心を忘れてしまいそうになったときにやりがいをみつるきっかけになることを願います。

2023年4月

明石医療センター 総合内科
官澤洋平